

## 事後評価シート

調査研究課題名	政策効果の分析システムに関する研究 輸送コストを考慮した産業立地ポテンシャルモデルの構築について
担当者	元研究調整官 水谷 誠 前研究調整官 國田 淳 研究官 檜垣 史彦 前研究官 蹴揚 秀男 前研究官 太田 隆史
当初目標と目標達成度	<p>本研究では、我が国において産業の生産や立地の行動を主として輸送コストから説明するモデルの構築を試みた。様々なケースの検討と再現性の評価を重ね、港湾や高速道路といったインフラ整備が生産額に及ぼす影響を精度高く再現することができた。</p> <p>さらに、いくつかの将来のシナリオの設定とこれによる試算を行っており、今後の物流ネットワーク整備のあり方や産業立地政策の立案への活用が期待できる。</p>
調査研究内容の妥当性	<p>交通インフラの整備が地域の産業に及ぼす影響の定量的な評価手法については、研究事例が少なく、とくにインフラが整備される当該地域のみならず、その効果が空間的にどう及ぼしうるかを検討できる評価手法を提案した点で新規性に富んだ研究である。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>研究の推進にあたっては、公共投資の評価、産業連関分析等に係る第一線の研究者からなるワーキンググループを開催し、十分に議論しながら研究を進めた。</p>
成果と活用	<p>成果を対外的に公表するとともに、今後の国土交通施策の検討材料として役立てる。 土木学会土木計画学研究発表会にて発表した。(H17春、H18春)</p>
その他	<p>PRI Review 第18号(2005年秋季号、中間報告)、PRI Review 第21号(2006年夏季号)に掲載済み。</p>
意見	